

平成23年度カーボンフットプリント試行事業
第2回カーボンフットプリント・ルール検討委員会
議事要旨

日時：平成23年12月5日（月） 13:00～14:30

会場：全日通霞ヶ関ビル 8F 大会議室（A）

●出席者

稲葉委員長、玄地委員、齋藤委員、辰巳委員、平尾委員、横山委員

●議題

1. 開会
2. カーボンフットプリント制度試行事業の全体スケジュール（確認）
3. サービス分野のカーボンフットプリントに関する検討について
4. 広範囲PCRに関する実証について（進捗報告）
5. 削減率の算定・表示について
6. その他
7. 閉会

●配布資料

資料1 議事次第

資料2 委員名簿

資料3 カーボンフットプリント制度試行事業の全体スケジュール

資料4 サービス分野のカーボンフットプリントに関する検討について

資料5 広範囲PCRに関する実証について

資料6 削減率の算定・表示について

資料7 “エコプロダクツ2011”への出展について

参考資料1 第1回ルール検討委員会議事要旨

参考資料2 サービスに関するPCR策定及びCFP算定・検証の考え方

参考資料3 CFPの削減率の算定方法について

参考資料4 エコプロ消費者WS開催案内

●議事概要

議事1. 開会 事務局より開会の挨拶

議事 2. カーボンフットプリント制度試行事業の全体スケジュール

資料 3 に基づき事務局より説明。

- 質問・意見は特になし。
- 本日の委員会は事業の中間報告の位置づけであり、これまでの事業の経過についてご意見をいただき、取りまとめにつなげていく旨について確認された。

議事 3 - 5 について、資料 4 - 6 に基づき事務局より説明。今年度の取り組みの中間報告を行った。主な意見は次の通り。

議事 3. サービス分野のカーボンフットプリントの検討について

- 世界的に ICT のカーボンフットプリントの検討が進んでいる。WRI の GHG プロトコルが ICT に関するドラフトを出しており、これとの整合性についても検討してほしい。
- サービス分野における削減率については現時点では議論するに至っていない。契約者数など時々刻々と変化するなどの要素があるが、事例が少ないため、今後事例を積み上げて検討すべきと考える。

議事 4. 広範囲 PCR に関する実証について

- コーヒーパチットの事例について、使用段階の条件設定は事業者の自己宣言で行うのが広範囲 PCR のルールであり、今回はコーヒーやお湯を対象外となっていたが、それがないと使えないのだからその負荷を使用段階に入れるべきだったのではないかと。洗剤の場合は水や洗濯機の電力の負荷を計上している。広範囲では使用段階の条件設定が一つのポイントだと思うが、使用段階を入れるべきかどうかなど、使用段階の取り扱い方法について制度全体の統一見解が無い。使用段階の設定の仕方で PCR を分類していくのが良いのではと思うがいかがか。
- 使用段階については意見が分かれ、既存の認定 PCR にも複数のパターンがある（例として、菜種油 PCR では使用段階を含むが、精製糖 PCR では含まない）。PCR 策定のために見解を統一したガイドラインが必要ではないか。
- 次回委員会ではエネルギー使用型製品についても報告して欲しい。

議事 5. 機能あたりの削減率算定・表示について

- 昨年度のサービス検討 WG メンバーにて検討を進める際に留意したことが 2 つある。ひとつは、企業が削減努力をしているのであればその表示を進めたい、という点。もうひとつは、消費者へのミスリーディングになってはいけないという点。
- IT 機器の話では、製品の機能の定義を理解するのが消費者にとって難しいと感じた。
- （事務局説明）消費者へのミスリーディングを避けるため今回は、販売単位の CO₂ 排出量も併記してもらうこととした。

- 同時期に販売している製品を比較して削減率を表示しようとする場合、比較対象とする標準品が過去の製品と比較して減っているのか増えているのかといった点にも注目をすべき。
- アプリケーションサービスの PCR については、新製品については契約者数が一次データで収集できないため、表示出来ないことになっている。この観点からもサービスの削減率は今後の課題との位置づけであろう。
- 「企業の削減努力表示」と「消費者へのミスコミュニケーションにならない」という二つの指針に基づいた更なる検討が大切。

議事6. その他

- 事務局より連絡：「エコプロダクツ 2011 でのブース出展」、「エコプロダクツ展内の消費者ワークショップの開催」、「総括シンポジウムの開催」について。
- 経済産業省からの連絡：組織の GHG に関する研究会を開催している。1月25日にサステイナブルコンソーシアムとヨーロッパの環境フットプリントについての関係者を呼んで開催する予定。
- 稲葉委員長からの連絡：1月27日に UNEP のデータベースのセミナーが開催される予定。

以上